名品紹介①

瑞殿・造社融通手形札
銀壹匁（原寸大）

①三輪大宮・米會所　銀壱匁　【350】

（法量 15.4×3.4 cm）

②同・賄方 空欄　銀壱匁　【40】

（法量 15.5×3.4 cm）

③同・賄方 池米清　銀壱匁（版木流用）　【30】

（法量 15.4×3.2 cm）

④同・賄方 池米清　銀壱匁（版木新調）　【50】

（法量 15.5×3.3 cm）

収集雑記（古札編）

①「箱には夢が……」

収集家の皆様は各地の催事会場を回る際、ショーケースやブック等に整然と並べられたもの（粒揃い）と、箱に投げ込まれた雑銭／雑札類のどちらを先に手に取りますか？

これは古銭と古札の両方を多少なりとも触った自分としての感覚でもあるのですが、古札に関しては圧倒的に雑札箱に軍配が上がります。

そこには、明らかな雑札がほとんどではあるものの、中には店主のよく分からないもの、すなわち「見立て違い」や「未知なるもの」が投げ込まれている可能性（雑銭箱以上に……）もあり、最もワクワクする瞬間なのです。

もっとも、特に力を入れている地元や寺社関係の他には、自分にはそれほどこだわりのあるところがあるわけでもなく、店主や友人とおしゃべりしながら適当に流してしまうことも多いのですが、いくつかの決め事というか、ポリシー（自分ルール？）もあります。

最初に、自分自身が何だかサッパリわからないもの（無数といえば無数……）。

次に、「小型札」であること（「大型札」は値の張る傾向も高いし、ブックに入らない……）。

最後に、できれば「版木札」であること（「書札」はどうも苦手……）。

これらにマッチするものがあれば取り敢えずゲット、という感じで会場を彷徨っていますので、見掛けたら気軽にお声を掛けてください。

さて、ここにご紹介させていただく札は、そんな雑札箱の中から全ての条項？にマッチし拾い上げたものですが、その後の調査の結果、なかなかに稀少なものと判明し、小さくガッツポーズをしたものです（後日、店主に報告に行くと「それはよかったですね」と、喜んでくださり、そんな店主を人間的にも尊敬する次第）。

【岩代・桑折村】

○井筒屋傳次郎 若松屋兵作

・銭二拾五文（青）発行年不詳【400】

（法量 10.7×2.9 cm）

実は、このもの、『福島の貨幣』（福島古泉会・昭和六三年）他、各書に掲載のある原品で、淡い青色がとても美しい一品です（この地特有の蚕種紙ではなさそうです）。

時代については不明ながらも、明治期のものというより江戸期のものといった感じがしなくもなく（単に見た目が……）。

なお、同書には「桑折札」として、銀三匁七分五厘（『日本古紙幣類鑑』にも記載）と銭五百文も掲載されているのですが、それらは「書札」にて引請人（いずれも押印）も違い、その体裁も含め同列に考えるものではないようです。

以上、古札（特に私札）は地域性が強く、異国の人間には「敷居の高い？」ものかもしれませんが、それゆえ思わぬ拾い物のできる分野でもあり、収集（勉強）するには「今がチャンス」といえるのではないでしょうか。

まさに、「箱」には夢が詰まっているのです。

【お願い】

書籍や各種のＨＰを見ていて常々思うのですが、せっかく画像を載せるのですから、せめて古札の四隅の折れくらいは直してあげましょうよ、そんなに時間は掛からないと思いますよ。